

田んぼのチカラで洪水対策！

安城市と稲作農家で取り組む

“田んぼで街を守り隊”の取組を紹介します！

安城市は、市内の稲作経営者14人と協力し、豪雨の発生時に田んぼに雨水を貯水し、都市部の浸水被害を軽減する「水田貯留事業」に取り組んでいます。

これは、市街地の上流域で、田んぼに通常の水位より余分に雨水を貯められるように、田んぼの排水溝に専用の「排水柵」と「せき板」を設置することで、豪雨の際に、普段よりも数センチ深く雨水を貯め、川に流れ込む雨水の量を減らす活動で、現在までにこの取り組みは79銘柄に広がっています。

この仕組みは、米を栽培する年の田んぼの排水溝に2枚のせき板をはめ込み、1枚は平時の適正水位に、もう1枚は豪雨時の貯水用の水位にするもの。この仕組みでの水田貯留を平成30年から行っており、水田の多面的機能を活かした街づくりを行っています。

平時と豪雨時のせき板の高さの違いは、水田ごとに異なるものの概ね5~10cmで、1反(1,000㎡)の田んぼであれば5cmの差によって約50tの雨水が貯水できる計算になります。

※ $1,000\text{ m}^2 \times 0.05\text{ m} = 50\text{ m}^3 = \text{水 } 50\text{ t}$

実際の効果について、浸水被害の件数だけでは単純な比較は難しいものの、水田で追加的に貯められる雨水が河川に全て流れる場合と比較すると、河川への負担は減り、下流の市街地での浸水リスクを確実に減らせています。

表彰実績 第23回中部の未来創造大賞 優秀賞（中部の未来創造大賞推進協議会 2023年3月）他

今後の展望

安城市では、浸水リスクが高い地域の上流域で水田貯留事業を進め、令和7年度までに約168銘柄の田んぼに「排水柵」・「せき板」を設置するとともに、河川改修や、調整池の整備を進め、浸水被害の軽減対策を進めます。

（参考）1か所あたりの材料費・工賃計：6~7万円（設備のサイズによって変動）



平時の水位との10cmの差で、豪雨時に100t/1000㎡貯水可能

この件に関するお問い合わせ先

J A あいち中央総合企画部広報強化対策室（高瀬）

TEL：0566-73-5504、080-3667-3853（安城市・農家と連携して取材対応いたします。）